

# 草薙ゼミナール

## 2011 年度 卒業論文集

2012 年 3 月

大阪経済大学 経営情報学部

ビジネス情報学科

指導教員：草薙 信照

草薙ゼミナール 2011年度 卒業論文集

【目 次】

指導教員	草薙 信照	2011年度卒業論文集の刊行に寄せて
M085016	高橋 大	*****
M085025	中川 敦	*****
M085031	藤田 美沙	名古屋市と大阪市におけるファミレスの分布の比較
M085040	吉岡 正人	難波駅周辺におけるコインパーキングの分布
M085062	中島 佑輔	大阪市内におけるスーパーマーケットの分布
M085071	松井 恒介	大阪府下におけるスイミングスクールの立地
M085072	三浦 将基	神戸市内における自動車販売会社の立地
M085087	海道 祐介	*****
M085088	金澤 佑樹	奈良県の自動車保有状況
M085093	桑嶋 亮平	東京と大阪の主要駅の比較
M085096	鈴木 浩平	大阪市北区における公衆無線 LAN アクセスポイント
M085117	米原 徹	阪神地域における公共施設の立地分析
M085128	舎夷 聡	*****
M085131	川嶋 秀幸	大阪府におけるショッピングセンターの立地に関する考察
M085137	田和 輝久	大阪府のひたたくりに関する分析
M085140	中岡 寛伴	奈良県の居酒屋に関する考察
M085153	堀川 健介	宝塚市の選挙投票率
M105351	伊熊 憲一	アパレル専門店の立地について
M105352	小野 直哉	茨木市内における居酒屋の立地

## 「2011年度卒業論文集の刊行に寄せて」

2012年3月 草薙 信照

2005年度から経営情報学部がビジネス情報学科とファイナンス学科の2学科構成となったことから、諸君は“ビジネス情報学科の第4期卒業生”、そして草薙ゼミとしては通算“第12期生”ということになる。

「データマップ；デジタル地図を通して世界を見てみよう」という看板に集まってくれた諸君に対しては、2年半という時間をかけて“厳しく鍛えてあげよう”と接してきたのだが、さて、何人が正面からそれを受け止めてくれたのだろうか。編入の2名を加えて総勢20名（最終的には18名）の諸君とは、多くのグループ課題や3年生冬の高知合宿などを通じて、あるいは就職活動期における個別面談等を通じて、確かな信頼関係を築くことができたと思っている。そして、卒論提出が目前になってからは（あるいは締切日を過ぎてからも）、毎回のように夜遅くまでゼミ室に残り、やる気と熱気に包まれた空気を諸君と共有できたことも、今となっては良き思い出のひとつコマである。

さて、卒業論文の総評である。ここに並んだテーマだけを見れば、“データマップに関する卒業研究”の名に恥じない素晴らしいものばかりであり、過去の論文集と比べても遜色のない、とてもまとまりのある論文集ができあがったといえるだろう。しかしてその実態は・・・年々、原稿の提出が遅くなる一方で、やり直しの指示は増えるばかり、と言わざるを得ない。それだけに、今年もこのような形で製本にこぎつけたことは、私にとっても喜びはひとしおである。

共通テーマという縛りの中で、各人が興味のあるテーマを自ら選んだことで、辛い作業に耐えて、なんとか完成にこぎつけられたのではないだろうか。諸君の独創的な発想に出会い、一緒に考える機会を得たことは、私にとっても良い勉強になったと感謝している。

毎年、完成した後だからこそ言うことであるが、私が卒業論文の意義としてもっとも重要だと考えているのは、卒業研究のテーマや論文の出来栄ではない。自分が選んだ1つのテーマに対してこれほど真剣に取り組んで考え、苦労しながらも論文という形にまとめたということが、間違いなく諸君を大きく成長させたであろうという点である。したがって、一生懸命に取り組んだという姿勢がひしひしと伝わってくる限り、その論文は何物にも替え難い貴重な宝物であると言ってあげたい。個々の論文の評価は、その価値を最もよく知っているはずの自分自身、そしてこの本を手にした読者の方々に委ねたいと思う。

大学生活4年間の集大成として卒業研究という大仕事をやり遂げた経験は、必ずや、これから社会人として人生に立ち向かっていく中で自信につながるだろう。そして10年後あるいは20年後にこの本を開いた時、懐かしく良き思い出として、諸君の心に鮮やかによみがえるに違いない。

今後は同じ社会人として対等に、あるいは時を経て私を導いてくれるようなつきあいをしたいけるならば、教師としてこれにまさる幸せはない。諸君の今後の人生における健闘を期待する。